

資料2 1. 単位時間の基本的な指導過程

	学習内容・活動	指導上の留意点
課題把握	1. 課題をつかむ (1) 問題をよむ 問題文… (2) 問題について話し合う ○ 求めるもの ○ わかっているもの (3) 立式し(又はことばで表現し)本時の課題をつかむ	子ども自らの課題として、意欲的に課題解決に立ちむかうように配慮する。 ○ 問題提示のしかたに配慮する。 ・意欲的にとりくめるよう子どもに適した問題に構成し提示する。 ・興味、関心をもたせるような提示のしかたを工夫する。 ○ 課題把握の様子を立式、又は「ことばの表現」などから十分確認する。 ○ 立式等の確認後「この計算はどのようにすればよいのだろうか」と問いかける(真の課題はあくになる)
課題解決の見通し	2. 課題解決の見通しを立てる (1) 既習内容と同じところ、ちがうところ明らかにする。(課題の核を知る) ○ 同じところ ○ ちがうところ(課題解決の核) (2) 解決の見通しを立てる(予想する)(こうすればできるといふ考え)(個) (3) 見通しを発表し話し合う。	既習事項と課題の関係づけを明確にし、課題解決に有効な既習事項を子ども自身が引き出して見通しを立て課題解決に努力するように配慮する。 ○ ひとりでも考える、グループで考える、みんなで考える等の機会を適切に計画し、多面的な見方ができるようにする。 ○ 引き出した既習事項と課題のちがうところを特に意識づける。(課題の明確化である) ○ 既習の内容と同じところ、ちがうところを意識して見通しを立てさせる。(見通し) (前時の内容と比べて本時はこの部分がちがう。このちがう部分を、このように考えて前時のこの考えを使って、こうすればできるだろう。
課題解決	3. 課題を解決する。 (1) 見通し(自分で考えた方法)にしたがって計算する(個) (2) 計算方法を発表し話し合う (3) 計算のしかたをたしかめる(具体物で、又は構成図で、又は類題で)	計算の手順だけでなく、解決できたのは既習のどのような考え方が支えとなったのかについてまとめるように配慮する。 ○ 見通しを立てたときの段階でのことがらと結びつけてまとめる。(支えになった考え方をまとめる) ○ 表現はできるだけ簡潔につままとめる。
まとめ	4. 学習のまとめをする (1) 計算についてまとめる(個) ○ 計算の手順 ○ 計算について基本になった考え方 (2) たがい発表し、話し合っ一般化する。	まとめの結果について、類似問題の練習をとおして十分身につけさせるよう問題内容、方法等に配慮する。 ○ 計画的な個別指導をおこなう。 ○ 練習結果のたしかめの方法について十分配慮する。
適用	5. 練習する(個) (1) プリントの問題 (2) 計算カードの問題をする (3) たしかめをする 6. 次時の予定を知る	

※(個)は、主として個別学習の場とし、個別指導をおこなう機会とする。

基本型を考え実践している。
 なお、これは望ましい型であって、教材によって弾力的に扱っている。
 ② 一人一人に手を、さしのべる指導(個別指導)について
 個別指導は、授業と授業外の時間に分けて実践している。
 ・ 授業では、
 資料2のとおりであるが、学習における児童の状態を観察、点検し、児童

の理解、習熟の度合いを的確に判断している。「わからない」「できない」状態から、「わかる」「できる」状態になるよう機会をつくり指導している。
 教師自らも、児童一人一人を的確に観察、点検する力と、学習状況を判断する力を高めるため努力している。
 ・ 授業外の指導では、
 火、木曜日の「学級の日」を中心に遅れがちな児童だけでなく、全員を対

象として、生活、学習上のなやみの相談にあたたく応じ、指導にあたって
 ③ 「計算力カード」について
 授業の進展度に伴って、易から難へ各単元のまとめもつけ、教師が計画的に自作編集した。
 内容は、児童一人一人の計算力向上をめざし、更にくり返し練習ができるドリルになっているため、子供たちは

意欲的に取り組んでいる。計算カードの頁には、学習記録として、得点と所要時間を記入する欄を設け、自己評価ができるようになっていいる。

三 まとめ

(一) 実践を通して

学習したことが「よくわかる」「やればできる」という学習に対する自信と意欲、また喜びを感じる子供に成長してきたのが一番うれしい。子供に、「わかる授業」を組織し実践してきたが、これが「一人一人にやる気を持たせる効果ある学習指導の根本」であることを、実践を通して再確認した。

また、子供の「わかりたい」という本来の気持ちを大切にして「一人一人の児童の実態を具体的にとらえ、援助と指導」のあたたく手をさしのべるものが、児童の「やる気」を支える。忘れてはならないことと思う。

(二) 今後の課題

研究実践の結果、計算力も高まり、学習のしかたが身につけてきた。この経験を、算教科の他の領域、更には、他教科でも生かし、拡大していかなければならないと思う。また、「一人一人にやる気を持たせる学習」の基調「ビッグマリオン効果」についても、継続して取り組んでいきたい。

最後に、自ら学ぶ教師群の姿が、この継続研究実践の土台となり、「やる気のある児童」を育てている。

(文責 穂積英雄)